

探訪 新ライフスタイル

新海誠監督の最新作映画「すずめの戸締まり」は、日本各地の「廃墟」を舞台として災いの原因となる扉を閉じていくストーリー。空き家、空き店舗、廃校、耕作放棄地など不動産ならぬ負動産が増殖していることへの警鐘と捉えた。「日本のベニス」とも称される富山県射水市の内川エリアで

空き家×デザインで広がる生活景



レンタル着物で散歩する女性

ライフスタイル

は港町の景観を生かしつつぎわいを取り戻している。つ、空き家や空き店舗にデザインを組み合わせ街がに30分、公共交通機関では約

川辺にマルシェ お寺でライブ

1時間かかる日本海に面した港町。19世紀に北前船の中継地として栄えてきた。たくなる、訪れたくなるよ

いた。内川の有形無形の地域資源から、この地に住み増やして来た。また、お寺ではジャズライブ演奏、着物をレンタルするショップでは一般モデルによる「内川きものコレクション」が川辺で開催された。

海から海へとつながる約900mの運河沿いには、漁業と暮らした調和から育まれてきた生活景が現存する。「生活景」とは、その地域に住む人や特徴的職業などから、社会的に醸成されてきた生活の営みが風景に現れることだ。

港町の風情を舞台に新たなカルチャーが加わり化学反応が起きてきた。最近はドライブヘッドスパ店が開業し内川の雰囲気を生かした癒やしのサロンも誕生した。また若者による新たなカフェ事業、民泊事業が計画中であり、環境を生かした再開発が広がる可能性がある。都会ではみることある。都会ではみることある。

運河には10以上の橋がかかり、川の両岸には漁船が連なっている。川べりには民家が立ち並ぶ。近年は高齢化と老朽化が進み空き家や空き店舗が増え、生活景の保存が課題となつて

11月中旬には、市と商工会議所が「かわべの開放WEK」という社会実験を開催。「かわべのリビングルーム」をテーマに橋や川沿いの道で居心地の良い時間と空間を演出した。橋にカウンターを設けて夕焼けを眺めながらの飲食、橋上でのドリップコーヒーの飲み比べ、図書館司書課程で学ぶ学生が選書した古本の販売に加え、期間限定店舗やマルシェも出店

フェは、京都や鎌倉のような「静のにぎわい」の可能性をもたらした。18年にはハワイ州からの移住者が、川沿いに「Bridge Bar」をオープンし、夜のきらめきを楽しめるスポットとなった。

19年には川沿いの漁師の町家を、1棟貸し切りの水辺の民家ホテル「カモメとウミネコ」にリノベーション。毎年、個性的な店舗が増えていくことで、エリア全体が洗練された生活景へと高められつつある。

(商い創造研究所所長 松本大地)